

TAKI



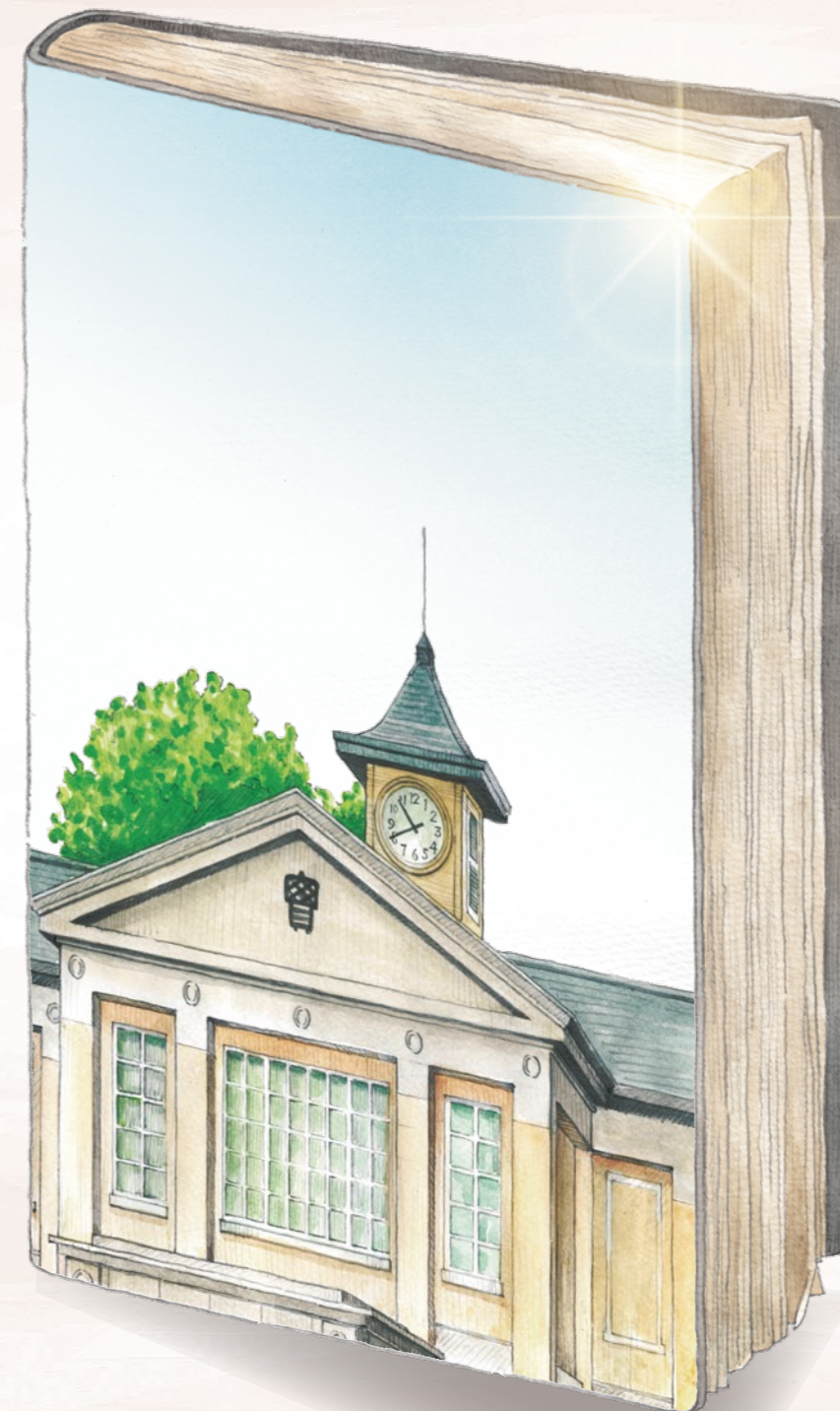
学校法人 滝学園
滝中学校
JUNIOR HIGH SCHOOL

2027 [学校案内]



学校法人 滝中学校

〒483-8418 愛知県江南市東野町米野1番地
TEL.0587-56-2127 FAX.0587-56-1732
<https://www.taki-hj.ac.jp>



未来の扉を開く



伝統と未来を
みつめる時計台

CONTENTS

- 01 建学の精神
- 02 校長のあいさつ
- 03 教育目標
- 05 滝学園の学び
 - 05 中高一貫教育
 - 07 滝学
 - 09 新しい学力観
 - 11 グローバル人材の育成
 - 13 土曜講座
 - 15 滝教育研究所
- 17 進路指導
- 18 活躍する卒業生
- 21 学校行事
- 23 クラブ活動
- 25 施設・環境
- 26 アクセス
- 27 インフォメーション
- 29 創立100周年を迎えて



未来の扉を開く。



受け継がれた建学の精神を新しい未来の礎に

滝学園は、明治から昭和にかけて実業家として成功を収めた滝信四郎が、「自分を育てくれた故郷から将来大いに活躍するであろう青少年を育てることこそ最大の恩返しである」と考え、「質実剛健」「勤勉力行」「報恩感謝」を建学の精神として設立しました。創立者のこの精神を私達は以下の教育理念と教育目標に発展継承しています。

質実剛健

「実」のある豊かな人生を結実させるためには、人格的にも知的にも中身の充実した質の高い人間性が求められる。そのためには、強く柔軟な精神力と、健康で健全な身体が必要である。

勤勉力行

高い理想に向かって、強い意志を固め、ひたむきにかつ貪欲に努力を続ける行動力のある人間が求められる。

報恩感謝

社会の発展が個人の幸福を保障し、個人の向上が社会の発展に貢献する。人間と人間とのつながりを大切に、人々のために努力する感性豊かな人間が求められる。



校長あいさつ

滝学園は、滝信四郎先生の「若者の教育を支援することで、故郷への恩返しをしたい。」という社会貢献の想いから創設されました。良き教職員、良き生徒・卒業生にも恵まれ、時代の流れの先取りを意識して進化し、100年に渡り伝統を築いてきております。現在、海外の日本人学校を含め広い地域からの新入生を迎え、卒業生は世界中で活躍しています。

100周年という節目に新たな教育目標を加えるとともに、今後も高い教育水準と良好な教育環境を維持し、良き伝統を堅持しつつ、先の時代を考えた教育を模索し、将来様々な世界で活躍する生徒を社会へ送り出すことが、創設者の想いの継承であり、滝学園としての社会貢献と考えております。

将来各界で活躍するであろう、意欲のある若い皆さんの期待に応えるべく尽力してまいります。



滝中学校

校長 高瀬 裕隆

[教育目標]

EDUCATIONAL GOALS

私たちは、
生徒一人ひとりと真摯に向き合い、
総合力に秀で、多様性に対する
寛容な姿勢を身につけた
魅力ある生徒の育成を目指します。

1 「知力」「体力」「教養」のバランスのとれた生徒の育成を目指す。

2 それぞれの夢の実現にふさわしい志望大学に合格するだけでなく、
その先に生きる確かな学力を身につけた生徒の育成を目指す。

3 自己の社会的責任を自覚し、周囲に対する優しさを持って、
それぞれが歩むネットワークの中で、かけがえのない役割を果たす
生徒の育成を目指す。

4 今後の高度情報化社会で自己実現を可能にする
情報技術・倫理観を獲得し、人工知能などの発達に伴い
益々重要になってくる知性・感性を持った生徒の育成を目指す。



滝学園 3つのポリシー

Three Policies of Taki Academy

卒業認定・学位授与の方針

ディプロマ・ポリシー

先人の学習を学び創造的に問題解決する力、変化する国際社会で自らの可能性に挑戦する意欲、多様性を尊重し協働しながら成長し続ける姿勢を身につけることを目指します。また、自他の心身の健康と安全に配慮し、確かな情報倫理のもとでデジタルツールを活用して学びを深めることができることを目指します。

教育課程編成・実施の方針

カリキュラム・ポリシー

先人の学習を継承し、教科の魅力に触れながら主体的に学びを深める機会を提供します。実社会の課題や異文化理解など教科を越えた学びを通じて、非認知能力と協働性を育み、確かな倫理観のもとでAIや情報技術を活用・発展させる力と、高度情報化社会で求められる知性と感性を養います。

入学者受入れの方針

アドミッション・ポリシー

様々なことに興味・関心を持ち、基礎・基本を大切にしながら自ら進んで学ぶ意欲のある人を求めます。異文化や多様な価値観に寛容で、協働を通じて成長する意思を持ち、国際社会の変化を柔軟に受け止めながら、地域の伝統や文化も大切にできる人を歓迎します。

中高一貫教育

EDUCATIONAL SYSTEM



学びがつながる6年間

中学校・高等学校の6年間は、生徒一人ひとりが子どもから大人へと大きく変貌していく時期。そして、自らの可能性を現実のものにするためのスタートの時期と言えます。この人生の中でもっとも貴重な時間をより有意義なものにするために、滝学園は中高6年一貫による教育環境を提供しています。

	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
目 標	基本的な生活習慣を確立し、体力の増強をはかる。自学自習の力を身につけ、基礎学力を養う。		将来に目を向けて、自己の志望を明確化する。広い視野を養い、学力の伸長をはかる。	模擬試験に積極的に参加し、応用力を養う。	大学入試に向けて実践力を養う。	
授業内容	主要教科は十分な時間をかけてじっくり学習する。授業においては小テストを繰り返すことなどによって基本的な知識を確実なものとする。		高校受験のために立ち止まることなく、中学3年から積極的に高校の学習内容に踏み込み、効率的に学習を進める。	英語・数学・国語については、教科書レベルの学習をこの学年で終了する。	英語・数学・国語については、大学入試問題の演習を中心に、志望校別の具体的指導を行う。	
学級編成	ホームルーム(HR)・授業とも均等にクラスを編成する。クラスの編成替えは毎年行う。			HRは均等に編成する。授業は習熟度別クラスを編成する。	志望に従って文系・理系に分かれ、それぞれでHRを編成する。授業は習熟度別クラスを編成する。	

中学校3年間の教育の特色

授業体制

通常授業を50分・週33時間〔週5日制〕で実施。これに7月末の体験型授業と、8月末および12月末に計10日間の通常授業を行うことで十分な授業時間を確保しています。授業はすべてHRで行い、3年生からは一部の授業で高校の内容を前倒して行っています。

学習指導

英語・数学・国語を中心に各教科に十分な授業時間を配分し、授業中の小テストなども実施して基礎学力の定着を図っています。また、生徒一人ひとりをよく知ったうえで学習指導や生活指導ができるよう、担任が定期的に面談を行っています。

体験型授業

1学期・最後(7月末)に、体験型授業として中1では英語のコミュニケーションプログラム、中2では志賀イングリッシュキャンプを3日間実施。中3では5日間にわたり英語のグローバルスタディーズプログラムを実施。共同・協働の学びを行います。

火曜学習会

〔フォローアップの補習授業〕

定期考査の結果から、学習到達度・理解が不十分であると考えられる生徒に対して行われる補習授業で、火曜日の放課後から下校時刻まで実施しています。教科は英語と数学。各定期考査後に対象となる生徒を指名し、次の定期考査までの間はクラブ活動に優先して授業を受けていただきます。少人数で行われるため質問などもしやすい雰囲気となっています。この学習会の他、宿題などの課題提出が滞っている生徒に対しては、教科の担当教員が放課後に指導することもあります。

高校3年間の教育の特色

授業体制

通常授業を50分・週33時間〔週5日制〕で実施。これに7月末と8月末、そして12月末にも計15日間の通常授業を行うことで十分な授業時間を確保しています。

高校1年生はHRを均等に編成します。授業は英語・数学・古文・漢文を習熟度別クラスで、他の教科は原則としてHRで行います。高校2年生からは文系・理系に分かれ、それぞれでHRを編成します。授業は英語・数学・古文・漢文〔理系は化学も〕を習熟度別クラスで、地歴・公民・物理・生物は選択クラスで、他の教科は原則としてHRで行います。高校3年生からは公立中学校等出身者と合流したうえで、理Iコース〔理・工・農系志望者コース〕、理IIコース〔医・歯・薬系志望者コース〕、文系コースの3コースに分かれ、それぞれでHRを編成します。授業は習熟度別クラスと選択クラスで行います。



学習指導

十分に確保された授業時間と精選された教材を使って難関大学・学部の入試に対応できる学力を養成しています。また、生徒一人ひとりの学習状況や進路希望を把握したうえで指導できるよう、定期的に面談を実施しています。

朝の小テスト・課題テスト

朝のSHR前の10分間を利用して、週に1〜2回、英単語や古文単語等の小テストを行い、基礎知識の定着を図っています。教科によっては、定期考査の中間期に50分間の課題テストを実施しています。

特別ゼミ・入試攻略授業

高3では、夏期は休み中も特別ゼミを行っているほか、夏期・冬期を通じて入試問題の攻略方法を解説する入試攻略授業を行います。大学の過去問等を解き受験への意識を高め、攻略方法を聞いて実践しながら、同じ大学を受験する集団を意識し、ともに最後まで戦い抜く仲間意識も高めていきます。

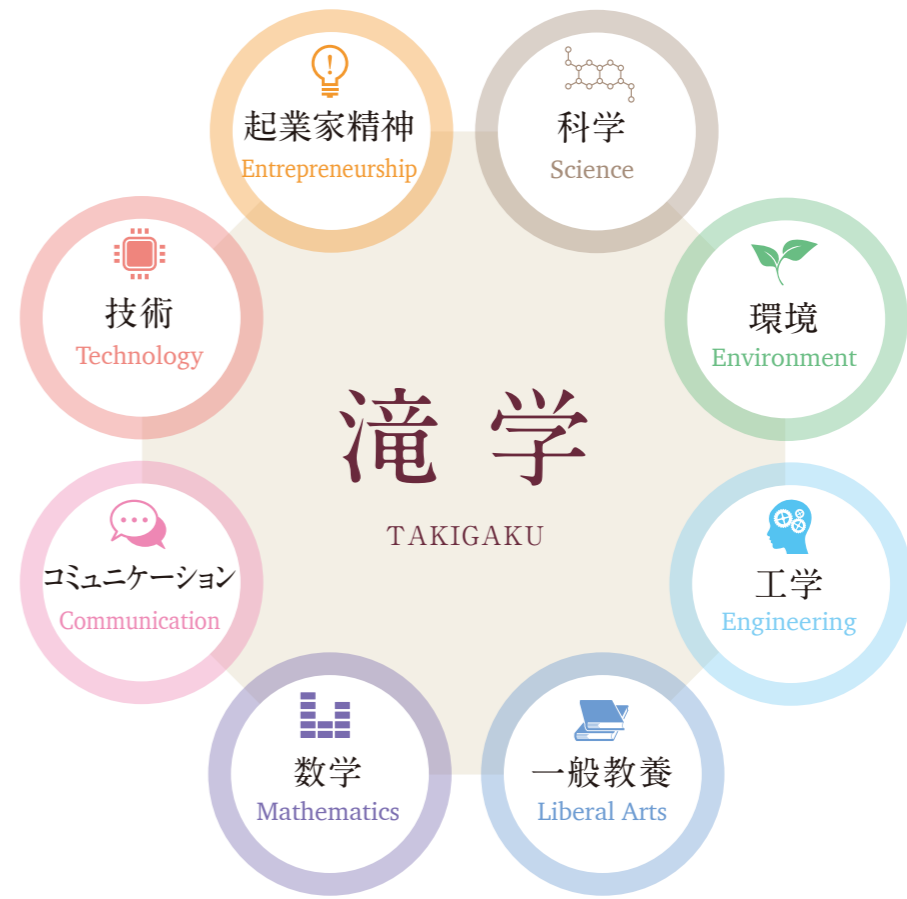
オープン講座

通常授業の放課後に、通常授業では取り上げにくい分野別・大学別の授業を希望制で行います。自学自習の姿勢や「深く」「広い」学力養成につながると思っています。



生徒参加型の授業 「滝学」

生徒自らが考え、発信することに重点を置いた探究授業では、科学技術関連の教科から環境教育、建学の精神などさまざまな分野から独自のテーマを設定します。創立100周年を迎えるにあたってはじめた滝学園の新たな取り組みです。100周年後もより深く探究をしていきます。



TAKIGAKU 生徒主体の 学び

将来に役立つ さまざまな力を磨きます

「滝学」は、教科の横断的教育に加え、自分の考えを言語化する経験を与えること、起業家・実業家精神を養うこと、環境意識を高めることも目指します。生徒が自ら考え、意見をつくり、発信していくことに重点を置いた、生徒中心の参加型の形式で行います。学年や時期にふさわしい課題を扱い、適宜、学園にかかわる内容も題材としながら、滝に学ぶ生徒として大切にしてほしい心構えや将来に役立つ力を身につけてもらうことを目指します。

創立100周年を迎え、創立者滝信四郎先生の思いや、滝富夫理事長の考えや姿勢(アントレプレナーシップ)について具体的に学ぶことを

手始めとし、学年に応じて、課題発見力、考察力、表現力等を磨きながら、自己発見や自己肯定感の醸成につなげ、未来を生きる糧を与えるため、改めてまとめたものが「滝学」です。



学校法人 滝学園
副理事長
滝 祥夫
(創立者の曾孫)

21世紀に求められる力の獲得に向けた学び

新しい大学入試に向けては、文部科学省から次ページのⅠ・Ⅱ・Ⅲの観点が表示されました。

この観点に基づいた教育が求められるとともに、「大学入学共通テスト」が実施されています。

滝学園では、こうした新しい動きに対する施策に、積極的に取り組んでいます。

新しい観点

Ⅰ 基礎的な知識および技能を獲得します。

滝学園の取り組み

今までの滝学園の経験を発展させ、すべての生徒に「基礎学力の今まで以上の定着」を目指します。英語4技能対策として、GTECや英検などの外部検定試験を積極的に利用します。



Ⅱ これからの時代に社会で生きていくために必要な「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を育成します。

滝学園の取り組み

中1では英語のコミュニケーションプログラム、中2では志賀イングリッシュキャンプ、中3では英語のグローバルスタディーズプログラムを実施します。「土曜講座」というフィールドを十分に活用して教養に裏付けられた専門性を深めていきます。



Ⅲ 「知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」を育成します。

滝学園の取り組み

クラブ活動の質の向上と各種大会への挑戦を通じて、アカデミックスキルを体得するように努めます。中3での卒業論文は、神戸大学大学院人文学研究科と連携して質の高い論文作成を目指しています。



滝学園のICT活用と、その実践事例

文科省・総務省・経産省等の通達では、次世代の学校・教育現場には、

◇学びにおける時間と距離の制約を取り払う

【遠隔・オンライン教育】

◇個別に最適で効果的な学びや支援のプロジェクト型学習を通じて創造性を育む【教養とSTEAM教育】

◇校務の効率化

◇学びの知見の共有や育成

などが、ICT環境のもとで保証される必要があるとされています。

滝学園においても、これらの動きに先立ち、まずネットワークの再構築を2019年の夏に、そして2026年2月には、最新規格に対応した環境の整備を行いました。それは、文科省の「GIGAスクール構想の実現標準仕様書」をクリアしたものになっています。全教室に65インチ型モニターを常設し、電子掲示板、ライブ配信、PCやタブレットのミラーリングをし、生徒への視覚教材ツールとしての活用をしています。

また、生徒・教員とも日常的にiPadを利用し「ロイノート」「Teams」「OneNote」などのアプリを利用し、生徒と先生の情報共有を行っています。



「教育のグローバル化・ボーダレス化」と「海外研修」

私たちが今日置かれている社会は「グローバル社会」というよりも「ボーダレス社会」と考えられ、日本のどこにいても海外の人との交流を求められます。この「ボーダレス社会」を生き抜く覚悟と力を育成したいと考えています。「ボーダレス社会」に対応できる人材育成の場は身近にも多くありますが、より海外の人々と触れ合う機会を求め本校独自のプログラムを提供します。

滝学園の考えるグローバル人材

社会の「グローバル化」にともない、教育の世界でも「グローバル人材の育成」ということがさかんに言われています。「グローバル人材」とは、単に「英語が話せる」「海外生活の経験がある」といった人材を意味しません。滝学園は次に示した力を備えた人をグローバル人材と位置づけ、「新しい学力観」に基づいた教育により「グローバル人材の育成」を図ります。

GLOBAL HUMAN RESOURCES

<p>TOUGHNESS</p> <p>困難に直面してもあきらめず最後まで課題解決のために努力を続けることができる強靭さを持っている人。</p>	<p>COURAGE</p> <p>未知の分野・世界に好奇心を持って飛び込んでいける勇気と行動力を持っている人。</p>	<p>COMMUNICATION SKILLS</p> <p>他者との協働のために、自身の考えを述べ、相手の考えに心を開くことができる人。そのための言語力（日本語・英語）を持っている人。</p>
---	---	--

海外研修

※訪問地、人数などは変更されることがあります。

カナダ研修 (中3)

●中3:3学期卒業式後、原則8日間、希望者から最大26名、自己負担

本学園の職員が交流校を選び、オリジナルのプログラムを組み実施しています。本校の生徒が、パディーと1対1となるよう配置し、いろいろなアクティビティーに取り組み、草の根レベルで多文化主義、環境や福祉への取り組みを学んでもらうことを目指しています。



アメリカ研修 (高1)

●高1:夏休み中、原則10日間、希望者から最大20名、自己負担

ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学(MIT)の見学に始まり、講義や、現地で実際に学ぶ学生からの話を聞くことは、将来を考える上で役立つことと思います。グローバル社会で活躍するために必要と考えられている考え方や技術を身につけられるような英語研修も含んでいます。



コロンビア大学

コミュニケーション能力の礎のために「体験活動を通して」

コミュニケーションには、言葉によるものや、言葉によらないものなど、いろいろな形のものがあります。その中心にあるのは、「伝え合いたいと思う心」と考えています。その心を大切に育てられるよう、体験学習として、以下の様なプログラムを実施しています。

<p>中1 コミュニケーションプログラム</p>	<p>コミュニケーションをとるとき、つい言葉に詰まってしまうなど、話すことに勇気が必要となることがあります。そういった場合の見えない心の壁のようなものを取り去ってあげたい、そして、伝え合うことの楽しさを味わってもらいたいと考えています。</p> <p>小学校での英語の授業や、入学後の学習ペースに乗り切れていない生徒さんにも、ツールとして英語を使う楽しさを体験してもらえるように工夫しており、復習や新たな学習のきっかけにはならずです。</p> <p>【プログラムの形態】 ホームルームクラスを2分割した20名程度のグループでのネイティブ教師によるレッスン。 1日5コマで3日間。</p>
<p>中2 志賀イングリッシュキャンプ</p>	<p>「“ジャガイモの皮をむいてほしい”って、英語でどう言えばいいの?」言いたいのに言えない。伝えたいのに伝わらない。そんなもどかしい体験を、たくさんしてみましょう。</p> <p>伝えなければ、カレーは完成しない!? さあ、授業で習った表現を思い出して! テストで覚えた単語を必死に並べて! 最後は、身振り手振りも総動員!</p> <p>教室を飛び出し、大自然の中で過ごす3日間は、きっと、忘れられない経験になるはずですよ。</p> <p>Could you peel the potatoes for me?</p> <p>【プログラムの形態】 2泊3日の間、約10名のグループごとにネイティブ講師が1名つき、飯盒炊爨やキャンプファイヤー、ハイキングなど、すべての活動を一緒にを行います。</p>
<p>中3 グローバルスタディーズプログラム</p>	<p>英語の基礎を固め、社会の仕組みを学びつつあるこの時期に、小グループでの意見交換を中心に活動をすすめます。その際、多様性に理解を深め、また、自己肯定感を高め、ポジティブシンキングを育てるようにしています。</p> <p>活動中に、“Don't be afraid of making mistakes.”という掛け声があちらこちらから聞こえてきます。英語漬けの5日間を過ごす中、英語で話すことへの抵抗を減らし、それぞれの生徒は各自のプレゼンテーションでプログラムを締めくくってくれます。</p> <p>【プログラムの形態】 各クラス、ファシリテーターによる指導の下、6名程度が1グループとなり、留学生1名がグループリーダーとして活動をリード。1日5コマで5日間。</p>

イギリス研修 (高2)

●高2:夏休み中、原則10日間、高2生希望者から3~5名を選抜、自己負担金10万円の他は卒業生・同窓会から補助を受け、UCL-Japan Youth Challengeに参加

日本各地から高校生がロンドンに集まり、現地生徒・学生との意見交換を中心とした交流を行います。

ケンブリッジ大学やUniversity College Londonの教授陣による講義、世界で活躍する日本人(本学園卒業生も含む)との対話イベント、ロンドン市内研修など有意義なイベントで盛りだくさんです。



グアム修学旅行 (高2)

●高2:12月中、3泊4日

グアム修学旅行では「異文化交流」の重要性を体験し、新しい気づきや価値観への理解を深めます。そのために、現地の高校生との交流プログラムや、グアム大学生とのディスカッションを実施します。また、グアムの伝統文化であるチャモロ文化にふれる様々な体験活動も行います。さらに、グアムには過去の戦争の戦跡も数多く残されています。平和な未来を作るために何が出来るかを学ぶことも、目的としています。



未来の扉を開く鍵

滝学園では、通常は授業の行われない土曜日を有効に活用し、生徒の皆さんの知的な好奇心や教養を高めるとともに、普段の授業のバックアップや応用力の育成を目指して、土曜講座を実施しています。



土曜講座記念講演会の講師

新入生、在校生、保護者の方々に土曜講座をよく知っていただく機会となるよう、毎年4月に記念講演会を開催しています。講師にはノーベル賞受賞者をはじめ、各界で活躍されている著名人をお迎えします。

【過去「土曜講座記念講演会」の講師】

ジェローム・フリードマン氏 マサチューセッツ工科大学 (1990年ノーベル物理学賞受賞)	宮川 繁氏 マサチューセッツ工科大学	梅原 猛氏 哲学者
李 遠哲氏 元台湾中央研究院院長 (1986年ノーベル化学賞受賞)	C.W. ニコル氏 作家	鎌田 實氏 諏訪中央病院名誉院長
池田 香代子氏 翻訳家	秋山 仁氏 数学者	大谷 貴子氏 全国骨髄バンク推進連絡協議会会長
渡辺 典重氏 第29次、35次南極地域観測隊長 明治大学教授 早稲田大学教授	斎藤 孝氏 明治大学教授	池田 清彦氏 早稲田大学教授
森永 卓郎氏 獨協大学教授	小柴 昌俊氏 東京大学特別栄誉教授 (2002年ノーベル物理学賞受賞)	養老 孟司氏 東京大学名誉教授
丹羽 宇一郎氏 日中友好協会会長 グローバルビジネス学会会長	天野 浩氏 名古屋大学教授 (2014年ノーベル物理学賞受賞)	前刀 禎明氏 ディアワンダー株式会社 代表取締役CEO & CWO (滝高等学校第26回卒業生)
森島 邦博氏 名古屋大学大学院理学研究科 准教授(素粒子物理学) (滝高等学校第47回卒業生)	岸 博幸氏 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科教授	渡辺 安虎氏 東京大学大学院経済学研究科教授 (滝高等学校第42回卒業生)
梶田 隆章氏 東京大学卓越教授 (2015年ノーベル物理学賞受賞)	大石 静氏 脚本家	スティーヴン・マーフィ 重松氏 心理学者 スタンフォード大学

学習講座

「グローバル社会」で活躍するためには、その前提として基礎となる確かな学力を身につけておく必要があります。

普段の授業をしっかりと理解して、学力を高めてもらうことがまず第一に大切なことです。

土曜講座では、各生徒の弱点を補うための基礎レベルの講座や、プラスαの高度な内容を探求するハイレベルな講座などが開講されます。「学習講座」を通じて、基礎力や応用力を高めたり、大学入試への対策を行うことができます。



英語講座
「英語おさらい講座」



数学講座
「整数を学ぶ」



国語講座
「滝中ゼミナール[漢文]」

教養講座

将来、社会のリーダーとして活躍するにあたり、自分が就いている仕事の分野に関する知識・専門性が求められるのは当然ですが、幅広い教養も必要とされます。幅広い教養は、世の中の動きを理解し、新たな発想を生み出し、的確な判断をするのに役立つだけでなく、人間的な魅力にも繋がります。「教養講座」で様々な世界に触れ、普段の授業だけでは得がたい経験を積んでもらいたいと考えています。本校教職員以外にも、大学の先生や様々な職業の方、卒業生を招いて開講しています。時には、在校生が講師になって講座を開くこともあります。



「医療の実体験学習」



「錬金術 銅が金に!？」



「ドローンの最新活用と航空法入門」



「イギリス研修報告会」



「誰でも参加できる和太鼓講座」



「刑法の門をたたく」



「世界に飛び出す第一歩!
留学で見た新しい景色」



「哲学対話(P for C)をやってみよう!」



「クイズの講座」



「困基講座」



「クリスマスキャンドルアレンジ」



「ニュースポーツ アルティメット」

滝教育研究所



株式会社 滝教育研究所
〒483-8275 江南市古知野町久保見194
電話：0587-58-6310 FAX：0587-58-6311
https://www.takied.jp/

学ぶ意欲を導きクラブ活動を支える施設

創立90周年を機に、若い教職員で作上げた100周年への道標が「滝2026年への羅針盤」です。

その中で、「学校には文科省からの『縛り』と学園自らの『縛り』の両方があり、それは学校という組織においては必要不可欠であるが、もっと自由に、後期中等教育の教育や研究をパイロット的に実践して、それを滝学園の教育にフィードバックする滝学園の付属研究機関（滝教育研究所）が必要」と謳っています。

この主旨に賛同していただいた学園関係者により「滝教育研究所」が開設されました。この研究所は滝学園の教育をさまざまな視点から評価・点検していただき、学園の教育活動の力強い協力機関となると考えています。

滝教育研究所は、学校が終わった後、「もっと教えた先生」と「もっと教えてほしい生徒」が出会い、さらに深い教育・研究をしていくことを目的としています。

自習室、自主ゼミ室を設置し、土曜、日曜、さらに長期の休み中も開放します。このことは多くの生徒達や保護者の皆様が望まれていたことだと考えています。

また、学校休業日のクラブ活動について滝学園から業務委託を受け、学校休業日の活動を可能にしています。具体的な指導・試合参加などについては多くを滝学園のクラブ顧問の先生方をお願いしています。



研究所からのあいさつ

滝学園では2016年、90周年事業の一環として、「滝2026年への羅針盤」が策定されました。この羅針盤には、今後の滝学園の目指す教育が示されています。この羅針盤に基づき、2016年の9月に株式会社滝教育研究所を設立いたしました。

私立大学では株式会社を持ち、その中で関連事業を行っていくというケースが多くあるようです。しかし、中学校高等学校においては、このようなケースは珍しく、まさに他に先駆けた画期的なことであると思います。

講師の先生方におかれましては、授業、クラブ指導、生活指導、進学指導等々で本当に忙しい毎日であると拝察いたします。そんな忙しい中に

あって、さらに御負担をおかけしてしまうことは誠に恐縮に存じております。また、その熱意が本当に有り難く、敬意を表します。

講座・クラブ活動について滝学園の先生方のご協力に感謝し、さらなる教育活動の充実を進めていく所存です。「滝2026年への羅針盤」が実現し、滝学園が将来に向けてますます充実、成長、発展されていくことの一翼を担ってまいります。

初代 代表取締役 社長
(元滝高等学校PTA会長)

滝教育研究所

講座部門 自ら学ぶ姿勢を掘り起こして、それを持続できる環境のもとで以下の講義を提供します。

- 滝学園の生徒のみに提供される講義
- アカデミックな授業、ディスカッションが展開される講義
- 志望大学に見合った「基礎学力定着」のための講義
- セミナー室、自習室の提供

例 | 高校と大学の接続研究機能、成績中位下位対策研究機能、英語教育研究、自習室・自主ゼミ機能、日本文化の「伝達」講座

公開活動部門 滝学園の教育のリソースを生かした、地域への公開講座の実施

- 例① 公開活動 | 文化財ツアー、幼稚園・保育園ツアー
- 例② 公開講演 | 円周率クイズ、ピラミッド

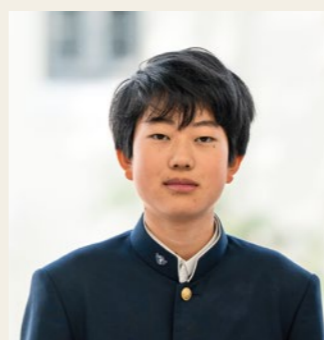
クラブ活動部門 学校休業日などのクラブ活動の支援、コーチの採用をサポートします。

受講生の感想

- 中3現代文総合演習
- 中3高校英語への架け橋

学校では学ばない発展的な英単語や長文の読み方を教わることができ、授業の進み方もゆっくりなので、無理なく受けることができます。

中学3年 服部成珠さん



- 高1物理
- 高1(内進)数学
- 自分の未来を創造するワークショップ

基礎から鍛えられて、とてもためになりました。前刀先生のワークショップでは、自分の価値観や考えを深掘りできて、多くの学びがありました。

高校1年 高橋咲帆さん



- 高1物理
- 高1難関大攻略のための現代文

授業の予習・復習に役立つ基礎の丁寧な解説に加え、普段不足がちな発展的な問題の演習で柔軟に考える力が身に付きます。

高校1年 細田瑛斗さん



- 高1古典読解力向上講座(ハイレベル)
- 高1(内進)数学

普段の授業よりも質問がしやすく、応用的な問題演習が多いので、苦手分野を克服したり、得意分野を伸ばしたり出来とても楽しいです。

高校1年 鷲津瑛瑚さん



CAREER SUPPORT

6年後を見据えたサポート

滝学園では、生徒の志望を第一に考えた進路決定を多角的にサポート。学年・担任・進路学習指導部を中心に、保護者の皆様との連携のもと、文系・理系の選択から学部・学科の選択、さらに志望大学の選定までの指導を行います。

その結果、生徒の多くが東京大学・京都大学、国公立大学の医学部医学科、さらに地元の名古屋大学など難関とされる大学・学部への進学を目指しています。



サポート体制

1 模試の分析と面談

本校では6年の間に多くの模擬試験を受けます。模試を受ける目的は、その時点での自分の学力を全国の中学生・高校生との比較で知ること、自分の弱科目・教科・分野を知りそれを強化していくことにあります。

本校では、模試受験後の指導として、その結果や指導方針などを学年・進路学習指導部で分析・検討し、生徒との面談を行います。

2 個別の大学情報

少子化の問題やグローバル化などの影響を受け、大学入試にも大きな変化が起きようとしています。

本校では、こうした状況に対応できるように的確な情報収集を常に心がけています。得られた情報は、適切な時期に適切な方法で生徒や保護者の皆様にお伝えします。

3 講演会

本校では、土曜講座記念講演会をはじめ進路学習指導部が企画する進路講演会などに、大学の先生や実業界で活躍されている方など多くの著名な方をお招きしています。

これらの講演会は、生徒自身が各自の興味関心の枠を広げ、「学び方・将来の生き方」を考えることを通じて進路決定につながるものと位置付けています。

また、諸々の分野で活躍している本校のOG・OBを招いてキャリア教育にも取り組んでいます。

進路講演会 講師 [令和7年度]

- 名古屋大学 特任准教授 橘 春菜 氏
- 名古屋大学 准教授 永野 拓矢 氏
- 名古屋外国語大学 外国語学部長 田地野 彰 氏
- トヨタ自動車 水素製品開発室 主査 今西 啓之 氏
- 名古屋市立大学 医学・医療教育学分野 教授 高桑 修 氏

活躍する卒業生

滝学園で学び、豊かな人間性を身につけた先輩たちは、さまざまなフィールドで活躍しています。自分らしい道で輝く卒業生の皆さんの声をご紹介します。



明日の自分には、無限の可能性がある。

プロフィール

昭和52年 滝高等学校 普通科 卒業。
慶應義塾大学 大学院 理工学研究科 管理工学専攻修士課程 修了。
ソニー、ペイン・アンド・カンパニー、ウォルト・ディズニー、AOLなどを経て、2004年にステイブ・ジョブズ氏から請われ、アップル米国本社マーケティング担当副社長 兼 日本法人代表取締役役に就任。
07年、株式会社リアルディアを設立。
23年にはディアワンダー株式会社を設立し、さらに新しい挑戦を開始。

01

ディアワンダー株式会社 代表取締役CEO & CWO 前刀 禎明さん

型にはまることなく、自分らしく。

滝学園の素晴らしい環境のよさです。時計台、校舎……。あのキャンパスに通えたことは自慢です。個性豊かな先生に恵まれたことも印象に残っています。いろいろな考えを持つ先生から、たくさんの刺激を得られたのは大きかったですね。当時は振り返ると、とにかく人と同じというのが嫌でした。「普通は」とか「常識的には」と周りから言われてきましたが、いい意味で反面教師に。型にはまることに疑問を感じていたからこそ、今のような自分になったと思っています。

常々、失敗とは新しい発見だと考えています。想定通りの結果が成功だとすれば、発見は少ない。でも失敗は想定外だから、多くの発見があるんです。これこそが学びのきっかけになり、成長できるんですよ。きちんと敷かれたレールの上で、小さくまらなくていい。悔しい失敗からの学びは大きいですから。

未来は、好奇心と創造性の先に。

ソニー、ウォルト・ディズニー、アップルなどを経て、リアルディアという会社を設立し、五感教育プログラムを手がけてきました。さらに新会社ディアワンダーを設立し、情熱的に挑戦しているのは、人々がワクワクしながら学べるワンダーラーニング。そこで提唱しているのが、セルフイノベーションです。つまり、自分を革新するということ。最近リリースしたアプリ「DEARWONDER+」は、プレイ、クリエイト、シェアという考えのもと、自分を解放し、自分自身を創り、自分を超えていこうというものです。ワンダーラーニングを広めることで、一人ひとりが自分らしく生きられる。自分の可能性や夢を追求することで、未来が豊かになっていくという世の中をつくりたいと思っています。

学び続けて、今日の自分を超えていく。

僕は創業者が好きです。ソニーの井深さんや盛田さん、ウォルト・ディズニー、ステイブ・ジョブズ。常に人々の期待を超えてきた人々たちを、すごりスペクトルしています。同時に心の中でライバルだと思っています。負けたくない。彼らは何かを成し遂げて完成した人々。僕はそこそこの年齢ですけど、未完成だと自覚しています。だからこそ、まだまだ未来をつくらなければならないですね。これからは学び続けて、挑戦していきます。

波打つような人生をおくっていますが、何とか右肩上がり。少し下がったとしても、何年前より上にはいるという感じで。これが、自分を超え続けるということ。みなさんには忘れないでほしいですね、常にチャレンジするんだという姿勢を。

令和8年度 大学入試結果

国公立大学の合格者数(現役生のみ)

令和5年度 173名 令和6年度 176名 令和7年度 166名

令和8年度 167名

難関大学の合格者数 ※既卒生を含みます。

東京大学 5名 名古屋大学 39名

京都大学 16名 早慶上智 58名

国公立大学 医学部医学科・歯学部・薬学部の合格者数 ※既卒生を含みます。

62名

学部・学科	計	現役	既卒
医学部医学科	47	35	12
歯学部	3	2	1
薬学部	12	7	5

主な大学の合格者数

国公立大学

大学名	計	現役	既卒
北海道	8	7	1
東北	1	1	0
東京	5	4	1
東京科学	6	4	2
一橋	2	2	0
岐阜	32	24	8
名古屋	39	29	10
名古屋工業	17	14	3
京都	16	10	6

私立大学(現役+既卒)

大学名	計	大学名	計
慶應義塾	27	同志社	56
上智	11	立命館	85
中央	11	関西学院	11
東京理科	53	その他	323
明治	19	合計	673
早稲田	20		
愛知医科	18		
藤田医科	19		
南山	20		

大学名	計	現役	既卒
大阪	11	10	1
神戸	2	2	0
九州	5	3	2
名古屋市立	16	12	4
その他	70	45	25
合計	230	167	63



在学時のエピソードをお聞かせください。

春日井さん:佐野さんとは中学・高校と同じソフトテニス部に所属し、ペアを組んで大会にも出場しました。練習が厳しい時期もありましたが、互いに声を掛け合いながら乗り越えた時間はかけがえない思い出です。何でも本音で話せる存在で、部活を通して人としても成長できたと感じています。
佐野さん:一番の思い出はやはり部活動です。春日井さんの努力を間近で見て、「私も頑張らなきゃ」と何度も励まされました。勉強面でも刺激を受け、お互いを高め合える関係だったと思います。今もそれぞれの目標に向かって努力していることが嬉しく、誇りに思っています。

在学中頑張っていたことは何ですか。

春日井さん:部活動と勉強の両立です。体力的に厳しい日もありましたが、休むときはしっかり休み、勉強するときは集中するなど、メリハリを意識しました。限られた時間をどう使うかを常に考えて行動していました。
佐野さん:私も部活と勉強を両立させることに全力を注ぎました。県大会出場を目標に練習に励み、小テストでも着実に成果を出すことを心掛けました。岐阜からの通学で時間は限られていましたが、移動時間を活用するなど工夫しながら続けました。

現在の取り組みと、滝学園で得たものを教えてください。

春日井さん:現在は公認会計士を目指して勉強しています。将来は資格を取得し、独立して企業経営に携わりたいと考えています。滝学園で身につけた、テストや課題を通して知識を定着させる学習習慣は今も大きな支えです。また、先生方が親身に寄り添ってくださったことも心に残っています。
佐野さん:大学では勉強に加え、部活動やアルバイトにも取り組んでいます。将来は地域医療に携わり、人と密に関わる医療を実践したいです。学園で学んだ計画性や継続する力、そして真剣に学び全力で楽しむ姿勢は、これからも私の財産です。

在学時のエピソードをお聞かせください。

磯谷さん:神野さんとは中学時代からの友人です。長月祭がコロナ禍で中止になった際、代替企画として映像を自主制作し、同じチームで撮影や編集に取り組んだことが印象に残っています。神野さんは物事に真面目に向き合い、好きなこととやるべきことのバランスを大切にする人でした。
神野さん:磯谷さんは中学卒業時のPV制作を担当するなど多才な存在でした。同じ文系として受験に挑みましたが、どこか憧れの気持ちがありました。現役で東京大学に合格した姿を見て、さすがだと感じました。

在学中頑張っていたことは何ですか。

磯谷さん:高校2年の夏頃までは写真部に力を注ぎました。部活で写真に向き合う時間が勉強の良い息抜きになっていました。受験勉強では自分に合った方法を模索し、生活リズムを整えたいうえで量を重ねました。
神野さん:中高6年間続けた陸上部の活動です。また鉄道好きが高じて有志団体でも活動しました。勉強面では気持ちを前向きに保つことを意識し、最後までやり抜きました。

大学生活と将来の目標、滝学園で得たものを教えてください。

磯谷さん:現在は心理学や医学、語学、プログラミングなど幅広く学び、サークル活動や音楽にも取り組んでいます。好奇心を大切に学び続ける力は学園で培ったもの。将来は、自分の興味から生み出したもので誰かの人生を豊かにできる人になりたいです。
神野さん:民族舞踊研究会や映画製作、鉄道研究会など多彩な活動に挑戦しています。学園で身につけた「継続する力」は大きな財産です。将来は鉄道関係の仕事に就き、どこでも信頼される人間を目指しています。



在学時のエピソードをお聞かせください。

曾根さん:中学の頃から顔見知りでしたが、高2で同じクラスになり一気に距離が縮まりました。文化祭や体育祭ではともに全力で取り組み、クラス対抗リレーで優勝できたことは忘れられません。卒業式後も一緒に学校で後期試験対策をしたのが印象に残っています。
横田さん:中学時代から勉強もスポーツも一緒に頑張ってきた仲です。模試の成績を競い合い、体育祭のリレーでも切磋琢磨しました。前期試験後も学校で励まし合いながら勉強し、互いに高め合える存在でした。

在学中頑張っていたことは何ですか。

横田さん:陸上部での活動と勉強の両立です。何事も全力で取り組むことを意識し、高1から計画的に学習を続けました。その積み重ねが受験期の余裕につながったと思います。
曾根さん:男子バスケットボール部での活動に力を注ぎながら、授業で確実に理解することを徹底しました。高3では予備校と学校の学習を両立し、先生方に相談しながら軌道修正を重ねました。

滝学園で得たものは何ですか。

曾根さん:部活と勉強を継続したことで培ったタフさが今の自分の強みです。落ち着いた環境で学べる点や、中高で程よく環境が変わる点も魅力でした。
横田さん:早い段階からコツコツ努力する姿勢と、英語力を身につけられたことが大きな財産です。先生方が一人ひとりに寄り添ってくださる温かい環境の中で、かけがえない仲間と出会えたことが学園の何よりの魅力です。

在学時のエピソードをお聞かせください。

武田さん:植田さんとは文系で志望校も同じでした。社会科目をととも努力している姿に刺激を受け、私も負けないように頑張りました。受験直前に「最後までやり切ろう」とグータッチを交わしたことは、今でも忘れられない思い出です。
植田さん:高2・高3で同じクラスになり、長月祭では協力して展示を作り上げました。同じ目標に向かって努力する仲間が近くにいたことは本当に心強かったです。武田さんは誰よりも努力を重ねる人で、その背中を追いかけることが自分の原動力になっていました。

在学中頑張っていたことは何ですか。

植田さん:一番は勉強です。入学当初は周囲より遅れを感じていましたが、その差を埋めるために人一倍努力しました。通学に片道1時間半かかる中、電車で英単語を覚え、放課後は自習室で勉強するなど生活を習慣化。日々の小さな積み重ねを大切にしました。
武田さん:私も勉強に力を入れました。部活動引退後は必ず自習室に通い、大まかな計画を立てて受験に臨みました。細かい計画よりも「今やるべきことを確実に終わらせる」ことを意識し、無駄な時間を作らないよう心掛けました。

滝学園で得たものは何ですか。

武田さん:高校で身につけた英語の文法や基礎学力は、大学での学びの土台になっています。気の合う友人に恵まれ、勉強の話だけでなく何でも相談できる先生方に出会えたことも大きな財産です。
植田さん:勉強と部活を両立した経験から、努力を継続する力と忙しさに負けない強さを得ました。6年間同じ先生方に見守られ、互いに高め合える仲間と出会える環境こそが、滝学園の何よりの魅力だと感じています。



[学校行事]

SCHOOL LIFE 共に学び、ふれあう日々。

体育大会・文化発表会・体験型学習・修学旅行といった学校行事を抜きにして中学校生活を語ることはできません。生徒会が中心となって、全力をあげて準備に取り組む体育大会・文化発表会は本校の一大イベントです。

年間行事

滝学園の教育の柱の一つである集団活動。1年を通して繰り広げられる学校行事やクラブ活動をはじめ、学校生活のさまざまな場面で人間関係の大切さを実感できる機会を提供し続けます。



4 April	5 May	6 June	7 July	8 August	9 September	10 October	11 November	12 December	1 January	2 February	3 March
入学式	第1回定期考査		第2回定期考査	宿題テスト	文化発表会	体育大会	中1美術的行事	第4回定期考査	始業式	カルタ大会	第5回定期考査
始業式	中3修学旅行(九州)		尾北支所 総合体育大会 体験型授業	始業式	面談週間	第3回定期考査	進学説明会(3年生)	面談週間	スタートアップテスト (到達度確認テスト)	進学説明会(2年生)	卒業式
宿題テスト			中1/コミュニケーション プログラム	PTA主催大学進学懇談会				終業式	模擬試験(Z会)		終業式
新入生 オリエンテーション			中2/志賀イングリッシュ キャンプ						球技大会		中3カナダ研修[希望者]
土曜講座記念講演会			中3/グローバルスタディーズ プログラム								
遠足			中1音楽的行事								
面談週間			中2芸術鑑賞 終業式								



[クラブ活動]

CLUB ACTIVITIES

こころの力を育む時間

今後、大学それに続く社会で求められる人間像は単に知識の量を多く持っている人間ではなく、身に付けた知識を活用して自らの周りの環境を主体的に変革できる人間です。そのため、共同意識や協働性や共感できる力が培われていなければなりません。そのような心や力の育成にクラブ活動が果たす役割は大きいものがあります。滝学園はクラブ活動を大切な教育活動と考えます。

ただ、従来ややると「勝利主義」になり、生徒の生活のほとんどがクラブ活動に費やされてしまうというケースもありました。私たちは、学習活動や学校行事やクラブ活動が一人の生徒の中に共存でき、その共存の割合は生徒自らが決定できることが望ましいと考えています。そのため、下校時間は年間を通じて午後5時30分としました。

また、学校休業日などの活動は年間最大60日までとしました。



野球部



バレーボール部 男子



バレーボール部 女子



陸上部



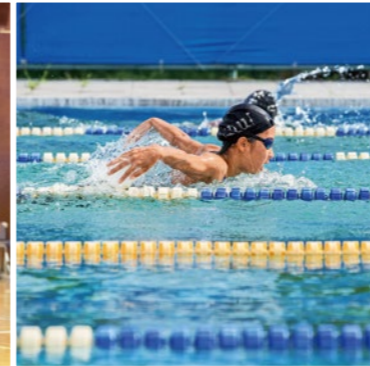
剣道部



サッカー部



ハンドボール部



水泳部



卓球部



バスケットボール部 男子



バスケットボール部 女子

クラブ活動を通じた海外交流 (過去の実績)



先進技術研究部／ハワイ(2018年3月)



柔道部／ハワイ(2023年3月)



ソフトテニス部 男子



ソフトテニス部 女子



柔道部



美術部



自然科学部



ブラスバンド部



カルタ部



合唱部



英会話部



先進技術研究部



将棋部

[施設・環境] FACILITIES

充実した学校生活のために

本校は、78,000㎡(パンテリンドームのグラウンド面積の約6倍)の広大なキャンパスに充実した学習・運動施設が配置されており、豊かで伸びやかな学校生活を過ごせます。それぞれの校舎は大樹に囲まれ、冷暖房を完備しており、静かな環境の中で落ち着いた授業が繰り広げられています。

また、本館・講堂・図書館は国の登録有形文化財に指定されており、本学の長い歴史を象徴しています。



1 本館



2 講堂



3 図書館



4 中学館



5 高校館



6 100周年記念館



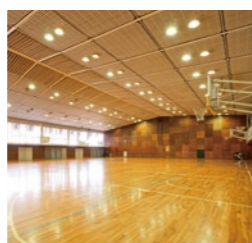
7 特別教室棟西館



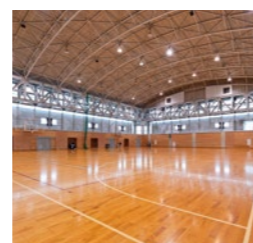
8 特別教室棟東館



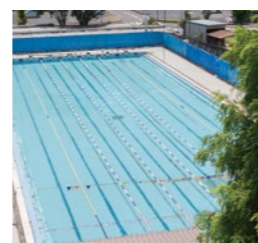
9 第1グラウンド



10 第1アリーナ



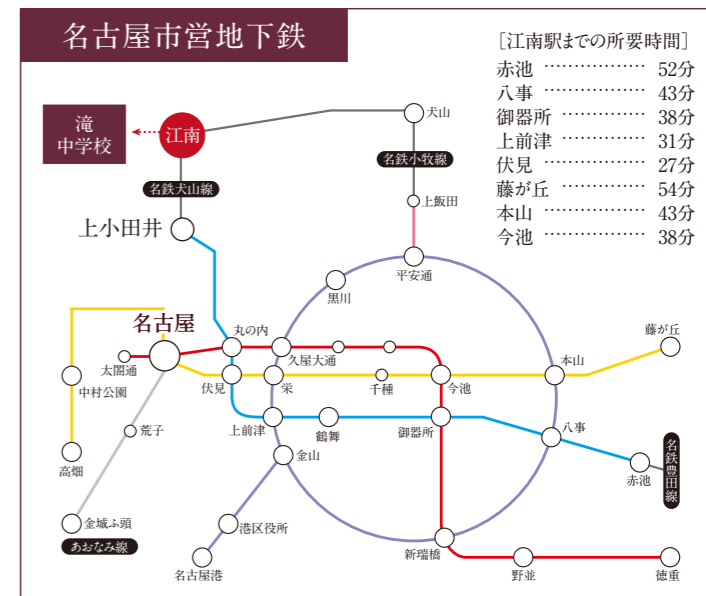
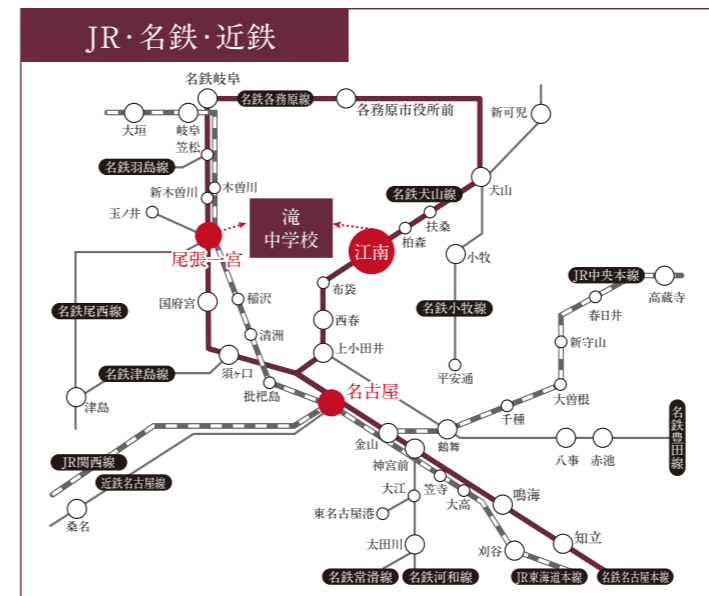
11 第2アリーナ



12 50mプール

[アクセス] ACCESS

交通のご案内

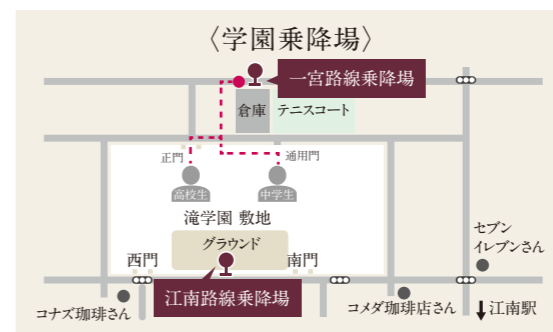


[江南駅までの所要時間]

赤池	52分
八事	43分
御器所	38分
上前津	31分
伏見	27分
藤が丘	54分
本山	43分
今池	38分

スクールバス(一宮路線・江南路線)

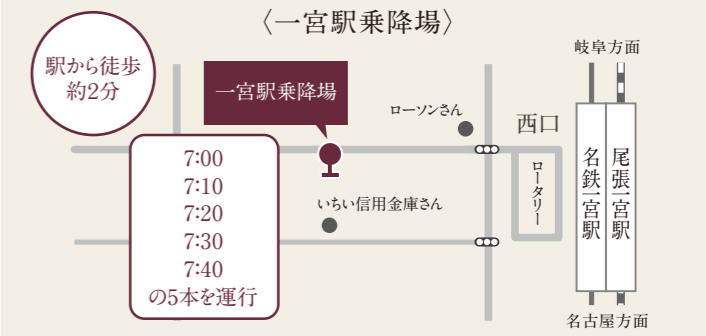
滝学園では一宮駅と学園を結ぶ「一宮路線」と、江南駅と学園を結ぶ「江南路線」の2系統のスクールバスを運行しています。両駅と学園間を直行で運行します。運行日は授業・土曜講座・行事のある日です。
※令和7年度新入生より有料となっています。



一宮路線

名鉄一宮駅・JR尾張一宮駅を利用する生徒および駅近隣の生徒はスクールバスを利用することができます。(所要時間40分)

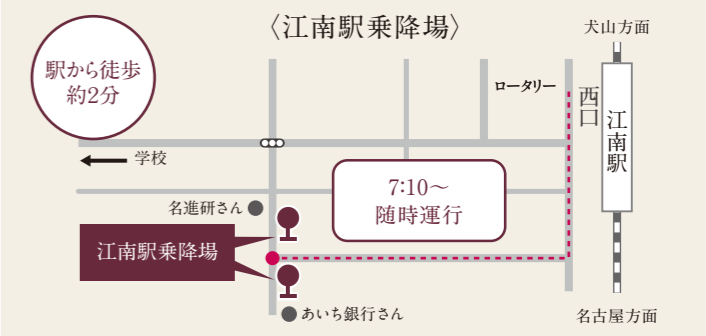
[往路]	一宮駅西口発 7時00分、10分、20分、30分、40分
[復路]	学園前乗車場発 授業後から下校時刻15分後まで運行



江南路線

名鉄江南駅を利用する新入生は、必ずスクールバスを利用して通学します。(所要時間8分)

[往路]	江南駅前発 7時10分以降、随時運行
[復路]	学内乗降場発 授業後から下校時刻15分後まで運行



[インフォメーション]

INFORMATION 学園について

最寄り駅の名鉄江南駅および名鉄一宮駅・JR尾張一宮駅とは学園敷地内発着のスクールバスで結び、名古屋市をはじめ、愛知県内、岐阜県内の広い地域からのアクセスも良好です。



地域別入学者数(令和8年度)

愛知県(尾張地方)

名古屋市	105人	知多郡	3人
一宮市	14人	日進市	3人
江南市	11人	北名古屋市	2人
犬山市	10人	東海市	2人
丹羽郡	10人	長久手市	2人
春日井市	6人	岩倉市	1人
海部郡	5人	尾張旭市	1人
小牧市	5人	清須市	1人
あま市	4人	瀬戸市	1人
大府市	4人	知多市	1人
稲沢市	3人	津島市	1人

愛知県(三河地方)

岡崎市	6人
刈谷市	3人
豊田市	2人
安城市	1人

三重県

四日市市	1人
------	----



岐阜県

岐阜市	12人	関市	2人
大垣市	6人	可児郡	1人
可児市	3人	美濃加茂市	1人
各務原市	2人	瑞穂市	1人

その他

国・私立小学校	24人
西日本	1人

男女共学

男子	137人(52.5%)
女子	124人(47.5%)



【通学者の声】

私は愛知県長久手市から通っています。通学時間は平均して1時間45分ほどなのですが駅からスクールバスがあり、滝学園まで歩かずに行けるので助かっています。野球部で部活を頑張っています。学校では勉強面でも部活面でもとても充実した生活を送ることができています。

安全対策

BLEND

入学時にBLEND(校務支援システム)の保護者アカウントに登録していただけます。警報発令時に緊急下校をする際などにBLENDのメッセージ機能を利用してお知らせします。PC、スマートフォン、タブレットからご利用できます。

スクールバス

登校時と下校時に、江南駅／一宮駅と本校を直通で結ぶスクールバスを運行しています。本校の敷地内から発着するため、バス待ちの時間も多くの目で守られています。

スポーツドクター等

スクールカウンセラーはもとより、スポーツドクターの定期的な検診・相談を受けることができます。

保護者の皆様との連携

すべての保護者の皆様にとって、生徒諸君がどのような学校生活を過ごしているかということは最大の関心事だと思われます。本校では、生徒諸君の学校生活の様子を、いち早く、詳しく、保護者の皆様にご覧いただくために、学年通信の発行をはじめ、保護者の皆様との連携に努めています。また、学級別懇談会(個人面談)、学年懇談会、進学説明会など学校と保護者の皆様との情報交換の機会を設けています。

進化を続ける滝学園



TOPIC 1

生まれ変わった制服

2026年の創立100周年を契機に2024年春、「個の尊重」をテーマにした制服が生まれました。生徒会考案のキャッチコピーは、「袖を通せ、新時代に」。ジェンダーレスが当たり前となった現在。生徒各自が自分の着たい制服を選択して着用し、生徒同士がその選択をお互いに尊重して認め合うことが本当の意味での平等である、という思いを新制服に込めました。

制服のメインカラーは、滝学園生が進む素晴らしい未来を予感させる、爽やかさと唯一無二の個性を表現した「Future Blue」。男女ともにスーツスタイルを採用し、ネクタイ・リボンの色は生徒アンケートで決定したネイビーベースとエンジベースに。スラックス・スカートから選択可能です。

ボタン

校章デザインのオリジナルボタン



ベスト・カーディガン

デザインは生徒アンケートで決定しました。



ネクタイ・リボン

高校へ進学時、ネクタイ・リボンのみ変更



【高校のネクタイ・リボン】

TOPIC 2

100周年記念館を新設

登録有形文化財である講堂と対をなす形で100周年記念館が位置することにより、歴史と未来を象徴しています。1階は高校の職員室、2階は国際交流をはじめSTEAM教育など新しい教育を実践する施設として利用されます。





伝統と未来を みつめる時計台

学校法人滝学園は、2026年に創立100周年を迎えました。

1926年、実業高校から始まった本学園の歴史は、変化し続ける時代の中で変化に対応し、変化を先取りした歩みを着実に重ねてきました。

あるべき学校とは、Well being(よく生きる)を実現し、かつ社会に貢献できる生徒を育成できる学校です。

本学園は100年を迎えて、さらにその先の100年を見据え、「社会・時代の要請に柔軟に対応できる生徒育成のエキスパート」を目指し、教育活動を行っています。さまざまな希望に向かって切磋琢磨する生徒・学生の“未来の扉を開く”ことを使命に、滝学園はこれからも進み続けます。

本学の歩み HISTORY OF TAKI GAKUEN

- 1926年(大正15年)4月 滝実業学校創立(商業部・農業部)
- 1947年(昭和22年)4月 滝中学校併設
- 1948年(昭和23年)4月 滝高等学校設置
- 1949年(昭和24年)4月 普通科を開設し、男女共学校となる
- 1964年(昭和39年)4月 滝高等学校に名称変更
- 1967年(昭和42年)4月 畜産園芸科(農業科)募集停止
- 1998年(平成10年)4月 商業科募集停止
- 2000年(平成12年)4月 滝中学校と滝高等学校普通科のみの中高一貫校となる

ご挨拶 MESSAGE

滝学園は、地域の文化の向上に役立てることを目的に、実業学校として始まりました。時代の変化に合わせて、大学進学を見据えた教育へと変化させ、生徒が希望の進路を叶えることのできる学校へと育てることができました。学校とは学習をする場所です。知識や経験を得るところから始まるのですが、それをいかに自分のものにするかが大事です。そして、自分で考え、自分で行動することのできる人へと導くのが学校の役割。将来、一人ひとりがそれぞれの分野で自分のしたいことのできるような、そんな意志のある人を育てていきたいと考えています。



学校法人 滝学園 理事長 滝 富夫

